

環^わの道^{みち}



写真提供：共同通信社

北海道洞爺湖サミットで記念撮影に臨むG8首脳。左からベルルスコーニ・イタリア首相、ハーバー・カナダ首相、メドヴェージェフ・ロシア大統領、ブッシュ・アメリカ大統領、福田首相、サルコジ・フランス大統領、メルケル・ドイツ首相、ブラウン・イギリス首相、バローゾ欧州委員会委員長。

CONTENTS

- サミット特集……………2～7
- サミットにおける成果……………2～3
- 環境総合展2008に出展……………4
- こども環境サミット札幌……………5
- 「七タライトダウン in 札幌」……………6
- この夏はぜひ「エコ・ギャラリー」に！……………7
- やめよう！「不法投棄」
- 進めよう！「クールビズ・プラス」……………8
- レンジャーノート……………9
- 鳥インフルエンザ発生……………10
- 新所長着任挨拶……………10
- イベント情報……………11
- 北のいきもの事典……………12
- 人事異動……………12

サミット特集号
2008.8



環境省

北海道地方環境事務所



▲日米首脳会談



▲日加首脳会談



▲日中首脳会談



▲日独首脳会談



▲G8ワーキング・セッション



▲主要経済国会会【MEM】



▲日印首脳会談



▲日露首脳会談



▲J8の想いを手に



▲拡大会合ワーキング・ランチ



▲コンセプトカー試乗



サミット 特集

G8サミットとは、日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ、ロシアの8か国首脳及びEUの委員長が参加して毎年開催される首脳会議です。今年は、7月7日～9日まで北海道の洞爺湖で開催され、環境・気候変動を主要テーマに、世界の食料安全保障、テロ対策についても議論されました。

サミットにおける成果（合意文書から）

G8サミットにおける合意文書のうち、環境・気候変動についての合意文書(抜粋)を紹介します。

1. 気候変動

- 2050年までに世界全体の排出の少なくとも50%削減を達成する目標というビジョンを、国連気候変動枠組条約(UNFCCC)の全締約国と共有し、かつ、この目標をUNFCCCの下での交渉において、これら諸国と共に検討し、採択することを求める。
- 自らの指導的役割を認識し、各国が、全ての先進国間で比較可能な努力を反映しつつ、排出量の絶対的削減を達成するため、野心的な中期の国別総量目標を実施。
- セクター別アプローチは、各国の排出削減目標を達成する上で、とりわけ有益な手法。また、エネルギー効率を向上し温室効果ガスを削減する有用な手法。
- 2009年末までに交渉される国際合意において拘束される形で、全ての主要経済国が意味ある緩和行動をコミットすることが必要。
- クリーン・エネルギーを推進。再生可能エネルギーの重要性を認識。持続可能なバイオ燃料の生産と使用の重要性を強調。
- 途上国の適応の努力に対する協力を継続・強化。
- 市場メカニズムは価格シグナルの提供を可能とし、民間部門に対する経済的インセンティブを与える潜在力を有する。様々な手段を各国の事情に従って促進し、経験を共有。

2. 生物多様性

- 生物多様性の保全と持続可能な利用の決定的な重要性について認識し、生物多様性の脆弱性についての懸念を共有する。
- 「神戸・生物多様性のための行動の呼びかけ」を支持し、世界的に合意された2010年の生物多様性目標を達成するため、野生動物の違法取引による脅威の削減も含め、生物多様性の損失速度比率を顕著に減少させるための努力を増大させるというコミットメントを改めて表明する。
- 温室効果ガス排出量の削減とともに生物多様性の保全及び持続可能な利用につながるコベネフィットアプローチを推進する。

3. 3R

- 資源をそのライフサイクルを通じて使用する方途の重要性を認識する。この目的のため、神戸3R行動計画を支持する。
- 情報共有、利害関係者間のパートナーシップ及びプロジェクトの策定と投資において3Rの観点を包含することの重要性を認識する。
- バーゼル条約と整合的であり環境上適正な方法により、再使用または再生利用可能な原材料と資源の国際循環を支持する。



▲よさこいソーラン



▲洞爺湖ビジターセンターにて



▲環境ショーケース視察



▲北海道情報館視察



▲マッカリーナの前で



▲羊蹄山をバックに



▲北のまるしえ



▲福田首相夫人主催昼食会



▲お茶会。



▲十二単の着付けを見学



▲記念植樹1



▲記念植樹2



▲網走の流氷

環境総合展2008に出展



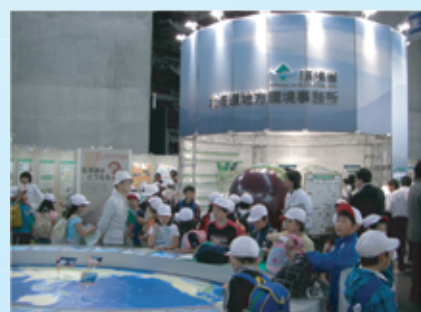
▲会場の様子

ほか、環境問題に関するフォーラムなどが開催されました。期間中は予想を上回る83,742人が来場し、北海道地方環境事務所ブースにも10,000人を超える来場がありました。

初日は、並木 正芳環境大臣政務官がオープニングセレモニーに出席し、挨拶では「北海道がサミットを契機に環境先進地域になってほしい。」と、期待を示されました。また、会場を内覧し、北海道地方環境事務所ブースでは「赤い地球儀」(温暖化が進んだ場合の100年後の地球を表した赤い地球儀)が青い地球になるよう、青いシールを貼り付けて温暖化に対する取組を呼び掛けました。

ブースでは「地球温暖化」をメインテーマとして、家庭から出る1人1日あたりの二酸化炭素量を1,527本のペットボトルで表したり、CO₂と大気中の空気をそれぞれ入れたペットボトルに光をあて、気温上昇の差を見る実験など、体感を重視した展示を行いました。

また、(財)北海道環境財団や北海道環境パートナーシップオフィス(EPO 北海道)などと協力して、北海道



▲北海道地方環境事務所ブース

における市民参加型の環境保全活動を紹介しました。

さらに「体験ひろば」では、カードゲームや紙芝居、環境理科実験などの環境教育プログラムや、「さかなクン」や「モリゾー&キッコロ」によるステージショーを実施し、エコライフの実践を呼びかけました。



▲並木政務官の挨拶



▲さかなクンのステージショー

北海道地方環境事務所は、今後も環境イベントに積極的に参加し、環境保全の大切さを訴えて参ります。

北海道地方環境事務所ブース展示内容

<展示ゾーン>

- 装置展示
「世界における日本の環境技術(アースマップ)」
- ペットボトルでの展示
「1日あたり、どれだけの二酸化炭素を排出している?」
- 立体展示
「温暖化が進むと、北海道はどうなる?」
「支笏洞爺国立公園の紹介」
- 実物展示
「北海道の絶滅危惧種(レブンアツモリソウ・エトピリカのデコイ)」

<市民活動ゾーン>

- (財)北海道環境財団
- 北海道環境パートナーシップオフィス~EPO 北海道~
- 全国地球温暖化防止活動推進センター~JCCCA~
- エコ・アクション・ポイント事業

<体験ひろばゾーン>

- 「ecoトランク」~北海道地方環境事務所~
- 「地球温暖化ふせぎ隊」~(財)北海道環境財団~
- 「地球温暖化とCO₂」~環境学習フォーラム北海道~
- 「持てるかな? エネルギーのかばん」~JCCCA~
- 「地球温暖化のしくみを知ろう」~北海道GEMS~
- 「ふるしき包みワークショップ」
~3 R推進マイスター浜口 美穂氏~
- ステージ
「森の妖精 モリゾー&キッコロと遊ぼう」
~モリゾー&キッコロ~
- ステージ
「さかなクンと考えよう わたしたちに、できること」
~さかなクン~



サミット 特集

こども環境サミット札幌

平成20年6月27日(金)~29日(日)

会場：札幌市モエレ沼公園 ほかに
主催：こども環境サミット札幌実行委員会

こども環境サミット札幌は、環境省・札幌市などで構成する実行委員会が主催し、海外10カ国40人、国内16都市62人、計102人の児童・生徒が集まり開催されました。

初日は、登山家の野口 健さんによる講演が行われ、清掃活動を紹介しながら未来に向けた地球の環境保全の大切さについてのお話がありました。

続いて、こどもたちから、各国や都市ごとの環境問題や取組が発表されました。その後、最終日まで、宣言書の提案に向けてワークショップが行われました。

最終日は、スポーツ界で活躍のアスリートも参加して宣言セレモニーが行われ、鴨下環境大臣と上田札幌市長に宣言書が手渡されました。

最後に、赤い地球儀セレモニーとして、温暖化防止メッセージの取組が行われ閉会しました。



▲「こども環境サミット札幌宣言書」が鴨下環境大臣に手渡されました。大臣は「サミットで各国首脳に宣言の内容を伝えたい」と述べました。

こども環境サミット札幌

~地球の未来へ、今、僕たち・私たちにできること~

宣言書

地球温暖化を防ぐために行動します
そして、環境にやさしい生活をします

未来の地球環境を守るために、できるだけ無駄を減らし生活習慣を改善します。

地球環境を守るためにエコの心で自然を感じること、エコの目で自然を見ることが、エコの手で自然を大切にすることを約束します。

- ・二酸化炭素の排出を減らします
- ・緑を大切にします
- ・水を大切にします
- ・エネルギーを大切にします
- ・ごみを減らします

世界のみんなに伝えます

人間と生物が共生できるきれいな地球にするために、私たちはここで学んだこと、みんなでつくり上げた考え方を、身近な人から世界のみんなへ伝え、共有します。

私たちは、「こども環境サミット札幌」で、「今、できること」について自分たちで考えました。そして行動していくことをここに誓います。

地球の未来が今よりさらに素晴らしいものになるために、大人の皆さんも私たちとともに考え、そして行動してください。

2008年6月29日

こども環境サミット札幌参加者一同



▲鴨下環境大臣、上田札幌市長、アスリートを囲んで記念撮影。

クールアース・デー記念 「七タライトダウン in 札幌」

サミット 特集

この夏はぜひ「エコ・ギャラリー」に!

7月7日、北海道洞爺湖サミット初日。「チーム・マイナス6%(環境省)」は、全国で行われる七タライトダウンと連携し、札幌市大倉山ジャンプ競技場で、北海道、札幌市、北海道地球温暖化防止活動推進センター、100万人のキャンドルナイト実行委員会、北海道洞爺湖サミット道民会議などの協力により「七タライトダウン in 札幌」を開催しました。

当日は、雨が降ったり止んだりと生憎の天気でしたが、鴨下環境大臣、上田札幌市長ほか多数のゲストの方に参加いただき、「こども環境サミット札幌」に参加した地元の子供たちによる宣言書の読み上げ、原田 雅彦さん・船木 和喜さんによるアスリート・トークショー、参加者によるライトダウンカウントダウン、福原 美穂さん・一青 窈さんのライブなどを通じ、身のまわりの「あかり」から地球温暖化問題を参加者で楽しみながら考えました。

※環境省では、2003年から温暖化防止のため、ライトアップ施設等の電気を消していただくよう呼び掛ける「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン」を、今年も6月21日(土)から7月7日(月)までの間に実施しました。本キャンペーンの趣旨に御理解と御賛同をいただき、施設のライトダウンについて特段の御協力をいただきました皆様、ありがとうございました。



▲カウントダウンの声とともに20時、ジャンプ台の照明が一斉に消え、天の川をイメージしたキャンドルが浮かび上がりました

G8首脳夫人とJ8サミット参加者の交流

G8首脳夫人とJ8サミットの中学生39名との交流行事が7月9日洞爺湖ビジターセンターで行われました。

実施に先立って北海道地方環境事務所からJ8中学生へ記念品としてDVD2種類とエコバックを贈呈し、浅野所長が英語で歓迎のスピーチをしました。

参加した首脳夫人はホステス役の福田 喜代子夫人(日本)、ローラ ブッシュ夫人(アメリカ)、ローリーン ハーパー夫人(カナダ)、スベトラナ メドヴェージェフ夫人(ロシア)、サラ ブラウン夫人(イギリス)の5名で、11時過ぎに首脳夫人らがビジターセンターに到着し、J8中学生との交流が始まりました。

最初に日本を含む4名のJ8代表からJ8サミットで議論した成果として、若い世代がこれからとるべき具体的な行動をまとめた「アクション・プラン」を「気候変動」、「貧困と開発」、「国際保健」の3つのテーマに沿って発表がありました。福田首相夫人からマータイ・ケニア元環境副大臣の「もったいない運動」や日本での母子手帳制度の取組等のコメントがあり、J8中学生に対して将来の活躍をお祈りするとご挨拶されました。

首脳夫人とJ8中学生とで記念撮影をした後、火山科学館へ移動し、有珠山噴火映像を鑑賞、お茶菓子をいただきながら歓談しました。交流行事は約1時間でしたが、首脳夫人らがビジターセンターを離れた後もJ8中学生らはしばらく楽しそうに歓談を続け親交を深めていました。



▲みんなそろって、ハイチーズ!



▲火山科学館にて楽しく交流

北海道地方環境事務所では、サミット開催を契機に洞爺湖を訪れる来訪者に対し、広く環境問題を知ってもらうため6月1日から8月31日までの3ヶ月間、洞爺湖ビジターセンター敷地内に、仮設の環境学習展示施設「エコ・ギャラリー」を開設しています。

展示テーマは、21世紀環境立国戦略の3本柱である「低炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の実現に向けて国立公園の自然環境保全の取組のほか、地球温暖化、生物多様性、3R等の環境問題について、分かりやすく紹介しています。

オープンしてから1ヶ月余りで2万5千人を超える皆様にご来場いただき、サミット期間の前後には国外からも数多くの方々が訪れています。

施設の概要などは、本年6月に発行した「環の道」サミット直前号に掲載しました。



▲「エコ・ギャラリー」で一生懸命何しているの?

リンク先

<http://hokkaido.env.go.jp/pr/wa.html>

イベントを実施しました

常設の展示のほか、これまで関係機関との共催などにより、各種環境イベントを実施してきました。

●「洞爺湖八景フォトサイクリング」

「洞爺湖八景」の選定と案内標識の整備については、サミット直前号で紹介したところですが、7月12日(土)には、自然風景写真家である石津 聰氏をお招きして、サイクリングで洞爺湖八景選定地を巡り写真撮影のテクニックなどを教わりました。当日はまずまずの天候に恵まれ爽やかな風を感じながら、ナイスショットを求めて盛んにシャッターを切っていました。



▲洞爺湖八景「浮見堂」にて



▲大きい! 捕獲個体の重量測定

●「洞爺湖ウチダザリガニ捕獲駆除体験」

7月20日(日)、午前中はウチダザリガニをダイバーが素手で捕獲する様子をモニターで見学したり、捕獲個体の計測体験を行いました。午後からは、エコ・ギャラリーでウチダザリガニとニホンザリガニの生態について説明を聞き、洞爺湖ビジターセンターで外来生物についての紙芝居を見ながら自然環境保護の大切さを学びました。32名の参加がありましたが、親子連れが多く、良い体験が出来たとの声が聞かれました。



▲早く乗りたいな



●「希少野生動物の染め絵や彫刻の展示」

6月14日(土)から6月17日(火)までの間、動物彫刻家の小笠原 み蔵氏と染め絵画家の植田 莫氏の作品展示を円山動物園との共催により実施しました。

◀彫刻&染め絵の展示風景

●「DMV(デュアル・モード・ビークル)の試乗会」

道路と線路の両方を走行可能なDMVの試乗会を、7月12日(土)から7月27日(日)までの土曜日・日曜日・祝日に洞爺湖ビジターセンター駐車場でJR北海道との共催により実施しました。

詳しくはこちら→<http://www.jrhokkaido.co.jp/new/dmv/index.html>

これからもイベントを開催します

今後の期間中も夏休みを中心に、洞爺湖湖畔での生き物ガイドウォーク、火山巡り、キャンプやカヌー体験など各種自然体験プログラムをエコ・ギャラリーを拠点とした多彩な環境イベントを開催し、サミットで議論された主要議題、「環境問題」に関し、アフターサミットでも広く普及啓発に努めてまいります。この夏、サミット開催地となった国立公園洞爺湖を訪れる皆様に、是非エコ・ギャラリーにも足を運びいただきたいと思います。

イベント情報など詳しくはこちら→<http://toyako-ecogallery.jp/index.html>

検索はこちら

洞爺湖エコ

検索

やめよう!

「不法投棄」

進めよう!

「クールビズ・プラス」

全国ごみ不法投棄監視ウィークの取組

自治体と共同で不法投棄監視カメラを設置

北海道地方環境事務所は、5月27日(火)、北海道胆振支庁管内壮瞥町内の昭和新山を望む地区で、不法投棄監視カメラを同町の担当者とともに設置しました。この地区は以前から不法投棄が絶えない地区であり、監視活動を強化することで、不法投棄の未然防止を図ることとしました。

北斗市及び江差町においても、各自治体の担当者と共同で監視カメラを設置しました。

【今後の設置予定】

9月上旬～：倶知安町、登別市、七飯町



▲壮瞥町での監視カメラ設置作業

お知らせ

不法投棄撲滅運動シンボルマークが出来ました

環境省では、平成19年度より、5月30日(金)から6月5日(木)を「全国ごみ不法投棄監視ウィーク」に設定し、不法投棄撲滅をめざして、様々な主体が連携した取組を進めるよう呼びかけています。

本年度においては、不法投棄をさせない、許さない社会環境を作り上げていくため、シンボルマークを一般募集し、5月30日(金)に開催された「全国ごみ不法投棄監視ウィークシンポジウム」(東京都)の場で、シンボルマークの発表及び入賞者の表彰を行いました。

今後、シンボルマークがデザインされた不法投棄対策の看板を、各地域に設置していきます。



産業廃棄物の不法投棄を見つけたら不法投棄ホットラインへ連絡をお願いします。

環境省不法投棄ホットライン

E-mail: sanpai110@env.go.jp

(ごみなし さんばい)

FAX: 0120-537-381

COOLBIZ プラス

2008年の夏は、「クールビズ・プラス」!!

「チーム・マイナス6%(環境省)」では平成17年の夏から身近に取り組める温暖化対策として、オフィスの冷房設定温度を28℃にしても、涼しく快適に格好良く働くことができるビジネススタイル「COOLBIZ(クールビズ)」を呼びかけてきました。

2008年度は、京都議定書の第1約束期間に突入しました。今年の夏、チーム・マイナス6%では、「COOLBIZ(クールビズ)」に温暖化防止アクションをひとつプラスする「COOLBIZ+(クールビズ・プラス)」を提案します。

例えば、「マイバッグ」、「マイ箸」、「マイカップ」などをプラスしたり、「自転車通勤」や「徒歩通勤」など身近なところからプラスしてみてください。





● 雄大な大雪山国立公園

東川自然保護官事務所 自然保護官 田 畑 慎之介



▲エドノハクサンイチゲ

ジリジリと太陽の光が照りつけます。振り返ると歩いてきた登山道が延々と続き、周囲にはお花畑が広がります。白の「エドノハクサンイチゲ」やピンクの「エゾゴザクラ」など、この季節を待っていたかのように咲き誇っています。遠くには上ホロカメットク山から十勝岳、更にその向こうには旭岳を望むことができます。ここは富良野岳の山頂です。花の百名山とも言われる富良野岳は、多くの利用者で賑わっています。十勝岳温泉から登り富良野岳、そして、三峰山を経由し上富良野岳から十勝岳温泉に降りるルートなどもあり、大雪山国立公園の広さを感じさせられます。

「富士山に登って山岳の高さを語れ、大雪山に登って山岳の大きさを語れ」と大正10年には、文人であった大町桂月が層雲峡から大雪山に登り、このような言葉を残しています。それよりも前の明治43年には、当時の愛別村長に

就任した太田 龍太郎は、「霊山碧水(れいざんへきすい)」として、その雄大さ、神秘さなどを紹介しています。太田村長は更に国立公園としての指定を働きかけています。当時、そのような先見の明があったことに驚かされます。

この長い歴史を経て継承されてきた大雪山国立公園の貴重な自然環境を保護するとともに、利用を図る点から、登山道整備や維持管理などにも力を入れています。毎年、シーズンはじめには関係者による現地調査を行ったり、必要に応じて補修作業を行っています。また、パークボランティアの方なども保護ロープ張りなどの活動をしています。みなさんもこの季節、登山などを通して、大雪山国立公園の雄大さを体験してみませんか。



▲富良野岳から十勝岳方面を望む

● 千客万来!!羅臼ビジターセンター

羅臼自然保護官事務所 自然保護官 若 松 徹

昨年5月24日にオープンした羅臼ビジターセンター(以下、V C)は、多くの方々に支えられながら2年目を迎えています。

1年目の年間利用者数は約3万人となり、これは旧V C時代の3.5倍以上になります。また、新V Cになってからの嬉しい変化として、町内の方々に多く訪れて頂けるようになったことが挙げられます。1年目の前半は、何の施設だろう?とV Cであることを知らずに来られる方も多かったのですが、後半には「これがオジロワシで、こっちがオオワシ。」と連れて来られた自らのお客さんに解説を行う町民の姿が見られるようになり、徐々に我が町のV Cとして浸透し始めてきたことは嬉しい限りです。

順調といえる1年目を経て2年目の本年度は、一度来られた方が「また来よう」と思って頂けるような、来るたびに变化あるV Cを目指し、以下の3つの事業に取り組んでいます。



▲人気の高いトドやヒグマなど知床を代表する動物の迫力ある剥製展示のほか、エゾシカの着ぐるみ、シマフクロウの実物重のぬいぐるみなどを触れる展示も好評です。

まず1つ目は、企画展の開催です。この夏休みには、知床の象徴「ヒグマ」をテーマとした企画展を開催する予定で、ヒグマの生態や付き合い方などヒグマの糞や頭骨などの実物展示とパネルを組み合わせたインパクトあるわかりやすいものになるよう準備を進めています。

2つ目は、自然観察会等のイベントの新規企画と実施です。将来的に、年間を通じてV C主催イベントがコンスタントに行えるよう、本年度は新たな企画を開発しながら、試行的に四季毎にイベントを実施する予定です。

3つ目はシャチの骨格標本の展示です。7m超の迫力あるシャチの骨格標本を新たに館内に展示する予定で、本年度の目玉となります。さきの2つの事業とうまく連

動させ、効果的に展示していけたらと考えています。

以上のように、まだまだ試行段階の羅臼V Cですが、さらに多くの方々に親しまれる施設となるようスタッフ一同、鋭意努力しておりますので知床にお越しの際はぜひお立ち寄り下さい。

みなさまのお越しを心よりお待ちしております!!

*最新情報はWebサイト (<http://rausu-vc.jp/>) をご覧下さい。



▲「環境問題パネル展」の様子。夏休みに開催予定の「ヒグマ展」など、今後も随時あらたな企画展や写真展を実施していきます。



4月下旬、秋田県十和田湖畔、北海道野付半島で発見されたオオハクチョウの死体から高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N1亜型・強毒タイプ)が相次いで検出されました。

今回の鳥インフルエンザの渦中となった釧路自然環境事務所と、北海道地方環境事務所(札幌市)の取組を紹介します。

十和田湖畔の事態をうけて、渡り鳥が渡来する国指定鳥獣保護区や国立公園で巡視を行うとともに、関連施設から渡り鳥の異常に係る情報を収集するなど野鳥に関する監視体制を強化しました。

このようななか、野付半島で巡視や聞き取り調査を行っていたところ、4月24日にトドワラ付近の遊歩道脇で1羽のオオハクチョウの死亡個体が発見され、道東の野生動物保護施設に収容されていたことが分かりました。5月1日、この個体の簡易検査の結果、鳥インフルエンザ陽性反応を確認、北海道大学での詳しい検査で病原性のH5N1亜型と判明しました。また、サロマ湖でもオオハクチョウの死亡個体が収容され、こちらからもH5N1亜型が検出されました。

このことから環境省では、渡り鳥の主要な渡来地である道東の濤沸湖・屈斜路湖・野付半島、道北の稚内大沼・クッチャロ湖及び道南のウトナイ湖などでハクチョウやガンカモ類の糞を採取し、鳥インフルエンザウイルスの保有状況を調査しました。職員はマスク、使い捨てのゴム手袋で防備し、野鳥の集まる湖畔を歩き、糞便を一つずつ試験管に採取する地道な作業が続きました。

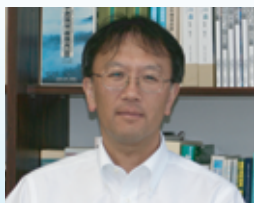
幸い、これら採取した糞便からは鳥インフルエンザウイルスは検出されず、一同ほっと胸をなでおろしました。

これまで実施した監視やウイルス検査では異常が見られないこと、ガンカモ类等冬鳥の渡りはすでに終了していたことなどから、高病原性鳥インフルエンザが蔓延している状況にはないと考えられます。

しかし、今は終息したように見えるものの油断はできません。これからも、国指定鳥獣保護区などを中心に野鳥の大量死などの異常がないか巡視や情報収集を行い、鳥インフルエンザへの適切な対応を図っていきます。



▲クッチャロ湖畔での糞便の収集作業



新所長着任挨拶

北海道地方環境事務所
所長 塚本 瑞天



7月14日付で北海道地方環境事務所長を拝命いたしました、塚本瑞天(つかもと ずいてん)と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

昭和30年4月、東京葛飾本田四つ木町生まれ、都立墨田川高校卒業、東京生まれ東京育ちです。昭和49年北大理類を目指したのですが望み叶わず信州大学に入學、昭和55年修士課程修了と同時に環境庁に入庁しました。専門は、応用植物社会学です。

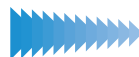
環境庁では、大山隠岐国立公園管理事務所、利尻礼文サロベツ国立公園管理官事務所(昭和58年4月~61年3月勤務)で国立公園の現地管理を経験し、その後本庁自然保護局で釧路湿原国立公園の指定、みどりの日環境大臣表彰の創設などに携わり、この他、地球サミットの準備、地方分権、中央省庁再編などに取り組みました。外務省では、経済協力における環境問題に取り組み、在ケニア大使館で国連環境計画への日本政

府代表代理を務めました。鹿児島県では、奄美群島自然共生プランの創設、屋久島の環境保全などを担当しました。環境省では、環境と開発に関する地球規模の諸問題、広報・報道、人事などを担当しました。稚内で生まれ今年4月に大学を卒業し就職した長女を含め子供は3人、妻が1人います。

主な著書には、自然観察路ガイドー北海道・東北ー(平凡社、1980、共著)、日本の自然公園(講談社、1989、共著)、緑地生態学(朝倉書店、1993、共著)があります。

稚内以来、22年ぶりの現地勤務が北海道であることに「縁」のようなものを感じています。この「縁」を大切に、仕事に取り組みたいと思います。そして「仕事は楽しく」やりたいと思っています。精一杯努力いたしますので、お引き立てのほどよろしくお願い申し上げます。

7~9月のイベント情報



現時点では、日程が未確定なものや、日時・場所が変更される場合がありますので、それぞれの連絡先に直接お問い合わせください。

環境対策課から ☎011-251-8702

- 7月18日(金)「平成20年版 環境・循環型社会白書を読む会」
- 実施場所：札幌市環境プラザ 環境研修室1・2(札幌市)
- 9月3日(水)「土壌汚染対策法に基づく指定調査機関向け講習会」
- 実施場所：札幌コンベンションセンター(札幌市)
- 9月8日(月)「平成20年度 パーゼル法等説明会」
- 実施場所：札幌第一合同庁舎 2階講堂(札幌市)

EPO北海道から ☎011-707-7060

- 7月26日(土) 持続可能な「団体運営」のために今できること！
～組織基盤強化セミナーと
PanasonicNPOサポートファンド助成公募～
- 実施場所：北海道環境サポートセンター(札幌市)
- 持続可能な開発のための教育(ESD)連続セミナー
- 7月12日(土)～13日(日)「開発教育/国際理解教育から考えるESD」
- 8月9日(土)「北海道洞爺湖サミットの報告と、世界と自分のつながりについて」
- 9月27日(土)「持続可能な社会とは？～愛媛とモザンビークのつながりから見てくるもの～」
- 実施場所：いずれも北海道国際交流センター大会議室
(北海道函館市元町14-1)
- 【お申込・お問い合わせ】
財団法人北海道国際交流センター(H I F)TEL: 0138-22-0770

稚内自然保護官事務所から ☎0162-33-1100

- 7月中旬から8月下旬 サブレンジャーによる湿原の清掃・解説活動
- 実施場所：豊富町サロベツ原生花園自然教室
- 7月18日(金) ナイトハイキング
- 実施場所：パンケ沼園地
- 8月31日(日) ブチ自然観察会
- 実施場所：豊富町サロベツ原生花園自然教室
- 9月28日(日) 秋の渡り鳥(ヒシクイ)観察会
- 実施場所：幌延町下沼園地

上川自然保護官事務所から ☎01658-2-2574

- 8月2日(土) 自然観察会
- 実施場所：三国山分水嶺
- 9月6日(土) 自然観察会
- 実施場所：白雲山

東川自然保護官事務所から ☎0166-82-2527

- 8月6日(水) 夏の動植物に会いに行こう
- 実施場所：旭岳温泉周辺

上士幌自然保護官事務所から ☎01564-2-3337

- 7月27日(日) 十勝三股 虫ウォッチング
- 実施場所：上士幌町三股周辺
- 連絡先：ひがし大雪博物館 (TEL01564-4-2323)
- 9月21日(日) 新得 秋の恒例登山
- 実施場所：新得町
- 9月28日(日) 三国山紅葉散策会
- 実施場所：上士幌町三国峠
- 連絡先：ひがし大雪博物館 (TEL01564-4-2323)

支笏湖自然保護官事務所から ☎0123-25-2350

- 7月12日(土) 滝巡り・自然観察会
- 実施場所：支笏湖周辺
- 8月3日(日) 自然公園クリーンデー
- 実施場所：支笏湖周辺
- 8月10日(日) 自然観察会
- 実施場所：支笏湖園地
- 8月31日(日) 体感!!パークレンジャー「美笛の滝と巨木の森を探検」
- 実施場所：支笏湖周辺
- 9月27日(土) 滝巡り・自然観察会
- 実施場所：支笏湖周辺

洞爺湖自然保護官事務所から ☎0142-73-2600

- 7月20日(日) 洞爺湖ウチダザリガニ調査・駆除体験から学ぶ
～どうする？外来生物～
- 実施場所：洞爺湖畔、洞爺湖ビジターセンター
- 8月3日(日) 流氷と珊瑚から見た地球温暖化講演会
- 実施場所：洞爺湖ビジターセンター
- 8月10日(日) アメリカオニアザミ駆除イベント
- 実施場所：洞爺湖中島

釧路湿原自然保護官事務所から ☎0154-56-2345

- 8月2日(土) 釧路湿原クリーンデー
- 実施場所：標茶町茅沼地区
- 8月23日(土) 子どもパークレンジャー ～外来生物の問題を知ろう～
- 実施場所：釧路湿原国立公園

層雲峡ビジターセンターから ☎01658-9-4400

- 7月12日(土)～8月31日(日) ミニ上映会・ペーパークラフト
- 7月末迄 山の花写真展
- 7月6日(日) ニセイカウシュッペ山登山
- 7月12日(土) 黒岳観測登山
- 7月26日(土) 黒岳観測登山
- 8月2日(土)～8月17日(日) ミニ上映会・ペーパークラフト
- 8月末迄 山の花・紅葉写真展
- 8月9日(土) 黒岳観測登山
- 8月23日(土) 黒岳観測登山
- 9月7日(土) 西クマネシリ岳登山
- 9月13日(土)～9月28日(日) ミニ上映会・ペーパークラフト
- 9月末迄 山の紅葉・いきもの写真展

支笏湖ビジターセンターから ☎0123-25-2453

- 7月19日(土) 口無沼と丸山遠見望楼
- 7月20日(日) 第一発電所ハイク
- 7月27日(日) 紋別岳登山
- 8月2日(土) 七条大滝ハイク
- 8月10日(日) 野鳥の森に咲く花を見に行こう
- 8月17日(日) 第一発電所ハイク
- 8月24日(日) 紋別岳登山
- 9月21日(日) 第一発電所ハイク
- 9月27日(土) 口無沼と丸山遠見望楼
- 9月28日(日) 紋別岳登山

洞爺湖ビジターセンターから ☎0142-75-2555

- 8月2日(土) 夏の四十三山自然観察会
- 実施場所：四十三山

洞爺財田自然体験ハウスから ☎0142-82-5999

- 8月1日(金)～7日(木) 短冊を飾ろう
- お盆期間 そば打ち・うどん打ち体験
- 9月20日(土) ソウベツ川さかなウォッチング

ウトナイ湖野生鳥獣保護センターから ☎0144-58-2231

- 7月13日(日) 傷病鳥獣救護ボランティア養成講座
- 8月2日(土) 子ども向け ウトナイこども探検クラブ
- 9月21日(日) 自然体験 秋を感じよう！のんびり観察会

宮島沼水鳥・湿地センターから ☎0126-66-5066

- 7月13日(日) とってさわって観察会
- 8月6日(水)～7日(木) 自然戦隊マガレンジャー
- 実施場所：宮島沼水鳥・湿地センター

浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館から ☎01634-2-2534

- 7月23日(水)～8月17日(日) カヌー無料体験

温根内ビジターセンターから ☎0154-65-2323

- 8月3日(日) 夏の湿原花ハイク
- 8月10日(日) ザリガニウォッチング
- 9月7日(日) 初秋湿原の花ハイク
- 実施場所：温根内ビジターセンター周辺

塘路湖エコミュージアムセンターから ☎015-487-3003

- 8月17日(日) 樹木ウォッチング ～夏編～
- 実施場所：サルボ展望台周辺
- 9月6日(土) 針穴写真機を作ろう
- 実施場所：あるこつとレクチャールーム

川湯エコミュージアムセンターから ☎015-483-4100

- 8月10日(日)～19日(火) 夏休みクラフト教室
- 9月14日(日) 藻琴山縦走登山
- 9月下旬 屈斜路湖畔クリーンタッチ

阿寒湖畔エコミュージアムセンターから ☎0154-67-4100

- 7月4日(金)～31日(木) 環境パネル展
- 7月21日(月)～8月20日(水) ポッケツアーガイド
- 8月3日(日) クリーンデーキャンペーン
雌阿寒岳清掃登山
オンネトー周辺清掃
ポッケクリーンウォーク
- 8月8日(金)～10日(日) 夏休み阿寒の自然スライドショー

羅臼ビジターセンターから ☎0153-87-2828

- 8月中旬 星空観察会

北のいきもの辞典

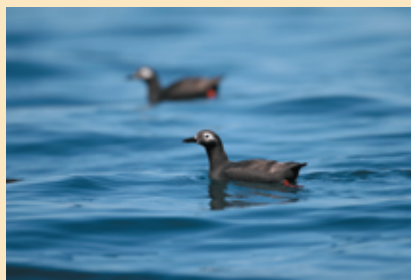
ケイマフリ

チドリ目ウミスズメ科

環境省レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類

北海道レッドデータブック絶滅危惧種

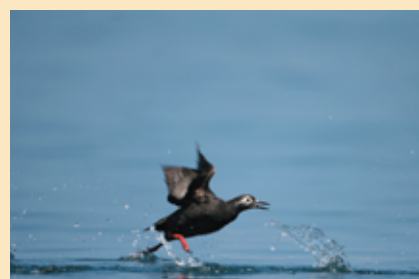
アイヌ語名：ケマフレ



▲目の回りの白、鮮やかな赤い足、黒い体と、色のコントラストがきれいな鳥です。(福田佳弘氏提供)

8月、オホーツク海は夏の光を浴びて青くきらきらと輝き、
 凪いで穏やかな日が多くなります。

海に出ると知床半島が岬方面まで見渡せ、高さ100mを越える断崖絶壁や断崖から直接海へ流れ落ちる滝など、迫力のある景色に魅了されます。海上では海鳥たちが豊富な餌資源を求めて飛び交い、賑やかに鳴き声をあげています。その海鳥



▲海上を駆ける。飛び立つときはパタパタという音と水しぶきをあげます。(福田佳弘氏提供)

たちの中で、黒い体にひときわ赤い足の目立つ鳥がいます。それがケイマフリです。

ケイマフリはウミスズメ科の海鳥で、極東アジアにだけ生息しています。目の回りが曲玉状に白く、鮮やかな赤い足が特徴で、アイヌ語のケマ=足、フレ=赤いというのが名前の由来です。ころんとした

体の形がかわいらしく、飛び立つときには海の上をパタパタと駆けて飛び立ちます。ピピピピピーと鳴きながら飛び回り、断崖の上で仲良く休んでいます。海に潜ってはペンギンの様に泳ぎ回り、細いくちばしでイカナゴやギンポといった魚を捕らえて食べます。

知床半島ウトロ側の断崖では、ウミウ、オオセグロカモメ、ウミネコ、ケイマフリの4種類の海鳥が繁殖しています。ウミウやカモメ類が断崖の斜面や岩棚を利用して巣を作ってい

るのに対して、ケイマフリは岩の隙間や穴を利用して巣とします。繁殖時期は5月から8月のお盆過ぎまで。断崖の巣穴では親鳥がせせと餌を運び、巣穴の中からは餌をねだる雛たちの声がピューピューと響いてきます。

ケイマフリは環境省の絶滅危惧Ⅱ類に指定されており、知床での生息数は2006年の調査では約140羽でしたが、2007年では約100羽しか確認されず、この一年で約40羽が減少しました。その原因ははっきりとわかっていませんが、ケイマフリの生息を脅かす要因と

しては、2005年に知床が世界遺産に登録されて以来増加した観光船による影響や、海中での採餌の際に漁網や釣り糸に絡まってしまうこと、さらに地球温暖化による海洋生態系の変化の影響等が考えられています。

それでは、ケイマフリを守るためにはどうしたら良いでしょうか。まずは、その存在を知ってもらうことが第一歩だと思います。そびえ立つ断崖も何も知らなければ、ただの岩で

しかありませんが、海鳥たちが隙間や岩棚を巧みに利用して棲み分けているのだと思ってみると、自然に対する見方が変わってくるのではないのでしょうか。

オホーツク海の豊富な餌資源と断崖絶壁を利用して果敢に生きるケイマフリ。目立たない存在ですが、知床の自然の豊かさを象徴する生き物のひとつであると私は思います。その存在を多くの人に知ってもらい、これからもケイマフリが安心して生きていける自然が残されていくことを願っています。



▲岩の上でひと休み。黒い体の色が保護色となり、外敵から身を守っています。

ウトロ自然保護官事務所
 自然保護官補佐 高橋 知里

人 事 異 動

() は旧 職 名

7月14日付

▼北海道地方環境事務所へ転入

- 北海道地方環境事務所長
塚本 瑞天(自然環境局総務課調査官)
- 環境対策課課長補佐
大川 正人(総合環境政策局総務課企画法令係長)

▼釧路自然環境事務所へ転入

- 統括自然保護企画官
則久 雅司(自然環境局国立公園課課長補佐)

▼北海道地方環境事務所から転出

- 九州地方環境事務所長
浅野 能昭(北海道地方環境事務所長)

▼釧路自然環境事務所から転出

- 自然環境局自然環境計画課課長補佐
櫻井 洋一(統括自然保護企画官)

8月1日付

▼北海道地方環境事務所

- 国立公園・保全整備課長(併任)
- 稚内自然保護官事務所首席自然保護官(併任)
- 上川自然保護官事務所首席自然保護官(併任)
坂本 真一(統括自然保護企画官)
- 環境管理専門官(併任)
大川 正人(環境対策課課長補佐)

▼北海道地方環境事務所から転出

- 自然環境局野生生物課
外来生物対策室室長補佐
宇賀神 知則(国立公園・保全整備課長)
- 北海道管区行政評価局
第一部評価監視調査官
三上 貴広(環境対策課地方環境対策調査官)

発行：環 境 省

北海道地方環境事務所

〒060-0001 札幌市中央区北1条西10丁目1番地 ユーネットビル9階

TEL (011) 251-8700・FAX (011) 219-7072

http://hokkaido.env.go.jp/

釧路自然環境事務所

〒085-8639 釧路市幸町10丁目3番地 釧路地方合同庁舎4階

TEL (0154) 32-7500・FAX (0154) 32-7575

http://hokkaido.env.go.jp/kushiro/